



1月18日 萩原南中学校



1月18日 小坂中学校

中学生と市長との 懇談会を開催しました

こんな「まち」になったらいいな！

未来の下呂市

将来を担う市内の中学3年生と市長が、「人口減少対策」や「まちづくり」について語り合う懇談会を開催しました。初の試みとなったこの取り組みは、郷土愛・ふるさと学習の一環として行ったもので、1月18日から21日にかけて、市内7つの中学校で行い、参加した3年生285人は、さまざまなアイデアを出し、市長と意見を交わしました。



職業相談所の設置

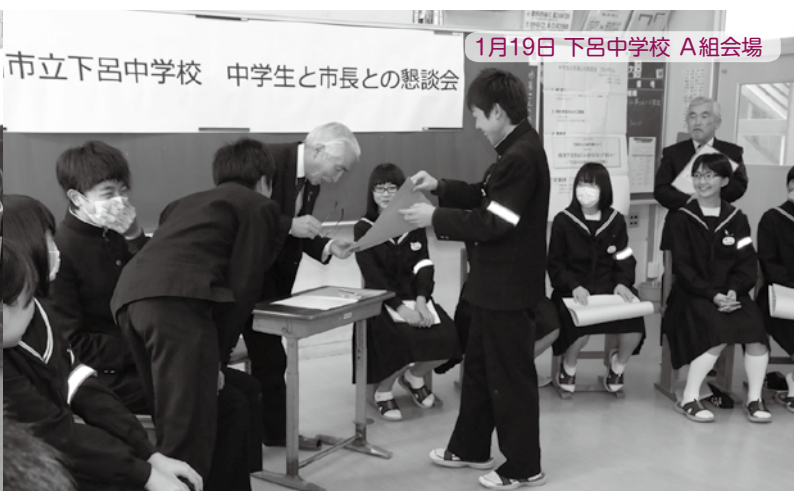
◆生徒 今ある仕事を生かすため、パンフレットで職場を周知し、仕事について相談できるところをつくるのいいと思います。
◆市長 萩原庁舎にハローワークという仕事を見つけ相談する場所があります。これが各地域にもあるといいと思います。益田清風高校では、就職ガイダンスを行っています。高校生の皆さんにも下呂市の仕事を認識してもらうことができ、地元就職者が増えました。中学生の皆さんにも地元の企業を見学してもらおうと思います。

ゆるキャラでPR

◆生徒 話すゆるキャラをつくれればいいと思います。話せることができればPRしやすく親しみを持ってもらえます。新しいゆるキャラをつくり、下呂温泉がもっと有名になるといいと思います。
◆市長 現在、「げろっぺんぐん」「はなみゅー」がいます。他のまねではない下呂らしいPRが必要なので、みなさんの新しい感覚でゆるキャラを考えてほしいです。
◆生徒 今考えている新キャラは、「温泉おじさん」「温泉おば

下呂に農業専門学校

さん」「温泉兄さん」「温泉ベイビー」「ゆげ(ネコ)」です。
◆生徒 下呂に農業専門学校を建てれば地元で学ぶことができから、若い人が下呂市から出ていかないと、地元に着者が湧くと思います。
◆市長 現在、下呂市の指導農業士が、農業研修生を受け入れて研修を行っています。みなさんが食べている給食の材料の中にも下呂市産のものが使われています。今、下呂市には3人の地域おこし協力隊員がいて、地域振興などにも取り組み、地域



1月19日 下呂中学校 A組会場

市立下呂中学校 中学生と市長との懇談会



1月19日 金山中学校



1月20日 竹原中学校



1月19日 下呂中学校 B組会場

で活躍しています。専門学校の提案も良いと思います。林業、農業を守ることはとても大切で、林業関係の専門学校もあっていいですね。担い手不足という課題もあり、今後も農林業を盛んにしていきたいと思っています。

下呂市に医療大学を

◆生徒 下呂市には自分の夢をかなえるための勉強をする場がないので、将来下呂を出ることになります。下呂市に医療を学ぶ大学ができればいいと思います。そうすれば、下呂温泉病院で働く人が増え、医療施設を整えることで、働く場が増えます。温泉を使った治療も進めるといいと思います。

◆市長 若い人が医療への関心を高めることは大切です。地域医療を守ることが地域を守ることにつながります。現在、下呂市では医師、看護師が不足しています。毎年、関係機関へ医師に来てほしいとお願いに行きますが、難しい現状です。自分の地域で医師に診てもらえるということは、安心につながりますので、子育て・出産に関しても、環境を整えることはとても大切です。今後とも医師を招くための努力をしなければなりません。皆さんの中に医療に携わる仕事を目標している人がいれば、い

ずれ下呂に帰ってきて活躍してほしいと思います。

交通アクセス網の整備

◆生徒 高速道路を新設することで住みやすくなり人が増えると思います。

◆市長 下呂市には高速道路が通っていません。濃飛横断自動

懇談会を終えて

生徒からは「子どもものいる人も働きやすい職場をつくらせて」「移住を考える人にお試しで何日か過ごしてもらえるようにしては」「ショッピングモールを建設しては」など他にも多くの提案がありました。

懇談会を終えた生徒からは「将来社会人になって、どんな下呂市にしたいのか、また自分にどんなことができるのかを考えていきたいと思いました」などの感想が聞かれました。また、市長からは、「君たちも3年後には有権者になりますので、市の将来を一緒に考えてほしいと思います。また将来、君たちが下呂市に住んでくれるよう取り組んでいきたいと思っています」と語りかけました。

車道はこれまでに25年かかり、ようやく全体の約10%が完成しましたが、完成するまでには、まだ時間がかかります。皆さんが大人になっても関心を持ち続けてほしいと思います。なお、国道41号線の安全安心に向けては、国土交通省へ強く要望しています。

今後に向けて

人口減少対策を克服し、持続可能な下呂市にしていこうためにはどうしたらいいのかなど、さまざまな意見が出されました。

中学3年生の子どもたちが、将来の下呂市について、市長と真剣に意見を交わす姿が堂々として印象的でした。

懇談の最後に市長が「将来、下呂市に住みたい。いずれは帰ってきたい人」と質問し、約3分の2の生徒が手を挙げました。中学生が持つ、地域への誇りや愛着を大切に育てていくことが、生徒全員に「将来、下呂市で暮らしたい」と思ってもらえることにつながるのではないのでしょうか。

経営管理部企画財政課
☎24・22222（内線2558）



1月21日 馬瀬中学校



1月20日 萩原北中学校